

盤石の強さ誇り打ち負かした

無敵の拳士

◆5月25日◆第25回西日本学生拳法個人選手権大会◆吹田市武蔵館洗心館◆大阪府◆松下と近藤が持つ力を遺憾なく発揮し、優勝を果たした。強者が集い、一瞬の隙も許されぬ熱戦が繰り広げられる。男子初段の部に出場した松下は、気迫あふれるプレーで相手を圧倒。反撃をもとめず、頂点に立った。女子初段・1級の部では近藤が獅子奮迅の活躍を見せ、積極的な攻撃で順調に勝ち進み、栄冠を手に入れた。積み重ねてきた努力が花開いた2人、今回の結果を弾みに、武道を極める。

◆戦必勝◆男子初段の部で松下、女子初段・1級の部で近藤が西日本を制した。日本拳法発祥の地、大阪府吹田市で行われた大会、トーナメントの頂点に立つべく、火花を散らした。

栄冠への道のりは決して平坦ではなかった。準決勝では大商大の西村と激突。先制されるものの、すぐに取り返す。白熱した攻防を繰り広げ、勝負は延長戦へとつれ込んだ。そこで松下は攻めの姿勢を崩さず、じわじわと敵の体力を消耗させていく。勢いが弱まった隙に2本目を取り、決勝戦へ駒を進めた。

迎えた決勝の時、立命大の松浦と対峙する。開始早々、胸に二撃を受けるが1本とはならず、相手が胸ばかり殴ってきたので、逆にチャンスだと思つた。松浦は、ひるむことなく間合いを詰めて、プレッシャーをかけてくる。好機を逃さず面を捉えた数秒後、足をひっかけ体勢を崩す。松浦はそのまま面を突き、何度もうき、喜びを表現する。松浦は王者の風格を漂わせていた。

◆近藤ほなみ◆(とんどう・ほなみ)2005年2月17日生まれ。滋賀県・近江兄弟社高校出身。164cm。同志社女子大学3年。

一方の女子初段・1級の部では近藤が着実に1本を重ねた。しかし準決勝は苦戦を強いられ、1本を先取るものの、その後、どなぐりして胴廻りを浴び、後がない状況で近藤の積極的な攻めが光る。北岸さんが決勝に上がつてくることは分かっていたので、私も負けずに頑張る。

◆松浦大起◆(まつした・だいき)2003年11月10日生まれ。大阪府・同志社香里高校出身。173cm・76kg。文化情報学部4年。

◆女子初段・1級の部◆
順位 名前 大学名
① 近藤ほなみ 同志社
② 北岸歩佳 同志社
③ 池田璃乃 大阪公立大
④ 平野陽菜 関大

惜敗も堂々の銀。驚きとうれしさを感じたと同時に課題を再発見できた。北岸が磨いてきた技術を存分に発揮し、西日本インカレ準優勝を遂げた。初戦は得意の面突きを積極的に繰り出し、2-0でストレート勝利。幸先の良い立ち上がりを見せると、準決勝まで順調に勝ち進んだ。たどり着いた決勝の舞台。待ち受けていたのは、近藤との同校対決だ。楽しいものと思いつつ試合に臨んだ。互いの戦法を熟知している中での真向勝負は、緊張感あふれるものとなった。試合は互角の戦いとなるが、先に相手の隙を突き北岸が1本

◆男子初段の部◆
順位 名前 大学名
① 松浦大起 同志社
② 松浦将吾 立命大
③ 西脇ガブリエル 大商大
④ 山田晋吾 大商大

◆5月10日◆記念試合◆対 Richmond Rugby Club (RRC) ◆於・同志社大学京田辺キャンパスラグビー場(京都府)

レスリング部 総力挙げV

チームの心臓 自転車競技部

強豪に一矢報いた 卓球部男子

◆小泉瑛士◆(こいずみ・えいし)2003年12月9日生まれ。大阪府・同志社香里高校出身。165cm・65kg。商学部4年。

◆陸上ホッケー部女子◆
◆4月20日～6月1日◆
◆2025年度関西学生ホッケー春季リーグ◆
◆グリーンランドみずほホッケー場(京都府)◆

◆田口義仁◆(たぐち・よしひと)2004年1月22日生まれ。岡山県・関西大学出身。今年度、卓球部の男子主将を務める。170cm・66kg。社会学部4年。



同志社校友会

Doshisha Alumni Association

同志社校友会事務局 MAIL: info00@doshisha-alumni.org



卒業生と繋がる
学生と繋がる
学生を支える

My best

スケジュール帳

女子主務を務める上で、やることを視覚化するための必須アイテムです。スケジュール管理が最も大切であり、部を円滑に運営するために責任重大なので選びました。

清涼菓子
リップ
財布
パソコン
ポーチ
香水
タオル
霧吹き
GOUKI
お守り
アメリカ政治の本
韓国語の本
手ぬぐい
筆箱
道着

一瞬を制する秘訣

主務として練習場所の確保、監督やOB・OGとの連携をそつなくこなし、部の運営を支える阿藤。その一方で、学びの時間にも真摯(しんし)に向き合う。「剣道は人間力の成長が大切」(阿藤)。韓国語の本など自分自身を向上させるアイテムを常に携帯。お気に入りの香水で気持ちを切り替えることも大切にしている。文武両道を体現し、日々まい進。こまやかな気配りをモットーに組織の屋台骨を担う。

主将を務める渡會は日頃の練習から仲間の先頭に立ち、チームをけん引。監督との連絡も欠かさず、信頼を集めている。「剣道以外の場面でも集中できる環境をつくることで、より良い剣道につながる」(渡會)。学びの姿勢は競技にも通じることから、授業に関するアメリカ政治の本を持ち運ぶ渡會。剣道以外にも集中できる場面をつくり出す前向きな姿勢が光る。また、グリップ力を高めるべく独自の工夫として霧吹きを持ち歩くなど準備を怠らない。関西制覇、全日本優勝へ、確かな歩みを進める。

阿藤颯姫

(あとう・さつき)

- 2003年4月28日生まれ
- 長野県・佐久長聖高校出身
- 157㌢
- 法学部4年

渡會剛生

(わたらい・こうき)

- 2003年10月21日生まれ
- 宮城県・仙台育英学園高校出身
- 172㌢・72㌔
- 法学部4年

剣道部

トライアスロン部

マネージャーが丁寧に作ってくれているので、必ず持ち歩くようにしています。お守りのおかげで、いつもマネージャーが見守ってくれている気がして練習や試合も頑張れています。やる気を引き起こす原動力の1つです。

トリスーツ
ランシューズ
帽子
ウェットスーツ

いつも心のそばに

スイム、バイク、ランの3種目を連続して行うトライアスロン。体力と精神力が求められるため、道具一つ一つにもこだわりが見られる。15・9度以下の水温時に着用が義務化されるウェットスーツ。桜があしらわれたデザインで個性を出しつつ、機能性も持ち合わせており愛着がある。ランパートでは、自然な走りをサポートするピッチ型専用のシューズを使用。靴ひもをゴムに変えて履きやすくするなど実用性も考慮し、質を高めるための工夫が随所に光る。また、林田青のお気に入りには鮮やかな赤色の帽子だ。「ランの時は絶対に着けている」。強い意志が求められるラストパートを後押しする。かばんに付けて肌身離さず持っているマネージャー手作りのお守りは、林田青にとって特別なもの。トレーニングや試合に臨む際の原動力だ。「マネージャーが見守ってくれている気がする」。思い入れのあるアイテムと鍛錬に励んだ努力が、彼女を成長させている。

林田青空

(はやた・そら)

- 2005年7月26日生まれ
- 京都府・同志社高校出身
- 161㌢
- スポーツ健康科学部2年

What's in my bag?

全52部活で構成される同志社大学体育会のアスリートたちは、おのおのが欠かせない愛用品を持っている。日々の練習や試合を支える必須アイテムから、気持ちを高めるお守りまで。今回は5つの部活に着目し、彼らがいつも持ち歩く“勝負かばん”の中身を紹介する。

My best

お守り

同期では杉本(経3)が1人でマネージャーをしてくれています。こんな大切なお守りを何個も作ってくれて、応援されている気持ちが安心してします。

折り畳み日傘
水
日焼け止め
筆箱
ノート
ヘアブラシ
サングラス

愛用品で実力引き出す

1年を通して海上を駆け回るボードセーリング部。強い日差しの中、ひたむきに練習を重ねる岡にとって日焼け止めは必須だ。「焼けやすい体質なので、大事なアイテム」。3種類を用途に合わせて使い分け、過酷な環境から自身の体を守っている。心の支えとなっているものは、1年時に同期のマネージャーからもらった手作りのお守り。「応援されているようで安心する」と仲間への思いを膨らませた。

成長の礎であるウィンドノート。お気に入りのキャラクターの筆箱で気分を上げ、筆を進める。入部以降、3冊にわたり書き記してきた。日々のトレーニングでの気付きや先輩からの助言などをまとめ、自身の技術向上につなげる。さらに大会会場ごとの波や風の特徴といった細かい内容を記録。競技に臨む際の重要な資料として、日頃から持ち歩く。積み重ねてきた努力や挑戦へのエールが詰まったかばんは、岡の揺るがぬ芯の強さを形づくっている。

岡杏納

(おか・あんな)

- 2005年1月31日生まれ
- 京都府・同志社国際高校出身
- 151㌢
- 政策学部3年

ボードセーリング部

夢を弾道にのせて

射撃競技のエアピストルは10㌢離れた場所から標的を撃ち、正確さを競う。昨年度の全日本学生スポーツ射撃選手権大会では女子総合3位、男子はエアピストル団体で優勝を取めた射撃部。その中でひととき異彩を放つ内田は、2024グランプリ台北大会で年齢の垣根を越えて強敵をなぎ倒し、2位の好成績を残した。

選手たちが試合で使用する用具は、思い入れのあるものばかり。射手にとって銃は切っても切り離せない相棒だ。非常に高値で販売されているため、中古で購入する機会が多い。高校3年時に祖父の援助で新品に買い替えて以来、この銃とともにあまたの試練を乗り越え歩んできた。

次のターゲットは国民スポーツ大会での優勝。目標達成に向けて、愛機とともに日々練習に打ち込んできた。これまで築いてきた功績や思いを胸に、最終目標であるオリンピック出場を一直線に狙い続ける。

内田翼

(うちだ・つばさ)

- 2005年10月17日生まれ
- 長崎北高校出身
- 163㌢・55㌔
- スポーツ健康科学部2年

銃は高価な物なので多くの人は中古で買いますが、おじいちゃんに愛されすぎて高校3年時の夏に新品を買ってもらいました。それまでは小学5年生から使っていた銃でした。おじいちゃんはコーチでもあります。栃木国体で優勝した時はずっと後ろにいてくれました。

銃ケース
弾入れ
弾入れケース
銃ケース
弾入れのケース
キャラクターマスコット

射撃部

ワンダーフォーゲル部

卒業した先輩からもらったものです。山に登るために必要不可欠ではないですが、付けていたら何かと便利です。色もイメージに合わせて買ってくれたのでお気に入りです。

救急セット
地図
熊鈴
断熱マット
靴
非常食
ガス
ヘルメット
サングラス

力合わせ未踏の地へ

「死ぬ前に見ておきたい世界を見に行く」(吉岡)。1週間の夏合宿に持ち込む荷物の重さは30㌔以上。中身はどれも命を守るための必需品だ。しかし、福田と吉岡のザックには道具以上に熱い思いが詰まっている。登山では常に何が起るか分からない。「夏山最終合宿を誰もエスケープさせずに完遂する」(福田)。あらゆる事態を想定し、準備を進めていく。熊対策の熊鈴は全員常備。足の負担を軽減するためのスティックは、骨折時の応急処置としても活用する。また、道迷いを防ぐ工夫も欠かさない。合宿前にはグループに分かれ、危険な場所を事前に調査。地図をすぐに取り出せる位置に入れて、正しい道を着実に歩む。

「しんどいからこそ、その景色に価値がある」(吉岡)。計り知れない苦勞を乗り越えて初めて得られる感動がある。唯一無二の経験を積めることが、ワンダーフォーゲルの魅力だ。険路の先にある絶景に引きつけられて、彼らは今日も頂を目指す。

吉岡利啓

(よしおか・としひろ)

- 2006年11月14日生まれ
- 兵庫県・三田学園高校出身
- 173㌢・63㌔
- グローバルコミュニケーション学部1年

福田莉子

(ふくだ・りこ)

- 2004年7月29日生まれ
- 兵庫県・神戸海星女子学院高校出身
- 165㌢
- 政策学部3年

全国の舞台で輝き放て

＜＜次戦予告＞＞
第57回
西日本大学男子ソフトボール選手権大会
7/19 SAT 11:00
@球磨川河川緑地 (熊本県)
同志社大学 VS 香川大学

◆最終戦対神戸学院大戦スポンサー◆
1番 藤井 大智 (投手) 岡山県立高梁高校出身 (スホ3)
2番 高橋 理央 (内野手) 神奈川県立・光が丘学院高校出身 (スホ3)
3番 西 颯太郎 (内野手) 広島県立御調高校出身 (スホ2)
4番 上野 結来 (捕手) 長崎県立大村工業高校出身 (スホ3)
5番 山本 大輔 (内野手) 広島県立御調高校出身 (スホ4)
6番 大西 晴敦 (内野手) 大阪府立高津高校出身 (スホ4)
7番 高井 大地 (投手) 奈良県立出身 (スホ3)
8番 辻 凌和 (内野手) 滋賀県立彦根東高校出身 (スホ3)
9番 牧 大雅 (投手) 群馬県・新島学園高校出身 (スホ4)

◆春季1部リーグ最終結果◆
順大 学名 勝敗 勝率

①同志社	5	0	1.000
②関大	4	1	0.800
③神戸学院大	3	2	0.600
④京産大	2	3	0.400
⑤立命大	1	4	0.200
⑥大阪公立大	0	5	0.000

アジア王者に君臨
◆6月25日◆U23 Men
Softball Asia Cup 2025
◆タイ(バンコク)◆
日本代表としてアジア大会
優勝に貢献した高橋と上野。
チームは初戦から着実に勝ち
進み、決勝戦で2人はバツテ
打を浴び2点を先制される苦
しい展開となるが、高橋は冷
静に対応、いつも通りの調子
で臨むことができた(高橋)。
マスクをかぶった上野のリー
ドをとり戻す。4回を2安
打に抑える好投を披露し、5
回コールドでシンガポールを
下した。
「昨年代表としてプレーした
上野は今大会2本の本塁打を
記録した。次なる目標は同志
社インカレ優勝、そしてW
杯に出場し頂点に立つこと。
世界で活躍する彼らの挑戦は
これからも続く。」

牧大雅
(まき・たいが)
2004年3月7日生まれ。群馬県・新島学園高校出身。今年度、主将を務める。ポジションはセカンド。右投げ左打ち。162センチ・62キロ。商学部4年。

ガッツポーズをする牧(切り込み写真)上・バットを振る石田(理工4)、下・笑顔を見せる部員たち



同志社アトム
ソフトボール男子
49年ぶり
連覇達成

◆ソフトボール部男子◆4月19日・29日◆第57回春季関西学生ソフトボールリーグ戦(男子)◆於・神戸学院大学第5グラウンド(兵庫県)◆他◆初戦から華々しい好力を見せつけ、12年ぶりに春季リーグ戦優勝を果たした。仲間と駆け抜けた春の軌跡が最高の形で結実。秋春連覇の偉業を達成し、最終目標である全国制覇のスタートラインに立った。2カ月後に控えるインカレでも、培ってきたチームワークを武器に躍進を遂げるに違いない。



快拳
「まずは1勝。絶対に勝つ(牧)」。初戦で京産大から白星を獲得すると、2戦目は立命大と激突。打線が止まらず相手投手陣を圧倒し、9-1でコールド勝ちを収めた。上昇気流に乗り込んだ同志社大は、同点で迎えた最終回に藤井が遊撃手の失策により出塁。次に打席が回ってきた高橋がレフトへの勝ち越し打を放ち、劇的勝利を挙げた。大阪公立大との4戦目は堂々たるプレーを披露し、14-4で圧勝。関西西王座に王手をかけ、無傷で最後の一戦に臨んだ。

奮闘
「まず1勝。絶対に勝つ(牧)」。初戦で京産大から白星を獲得すると、2戦目は立命大と激突。打線が止まらず相手投手陣を圧倒し、9-1でコールド勝ちを収めた。上昇気流に乗り込んだ同志社大は、同点で迎えた最終回に藤井が遊撃手の失策により出塁。次に打席が回ってきた高橋がレフトへの勝ち越し打を放ち、劇的勝利を挙げた。大阪公立大との4戦目は堂々たるプレーを披露し、14-4で圧勝。関西西王座に王手をかけ、無傷で最後の一戦に臨んだ。

揺るがぬ覚悟で見据えるは日本の頂点のみ

学院大との一戦。初回、藤井の右安打でチャンス。演出すると、守乱に乗り先制点を奪う。先制できてリードを守って良かった(牧)。2回には牧の適時打で2点を追加。3回には山本が豪快な本塁打を記録し、最上級生を筆頭に勝負強さを大いに示した。流れをつくった同志社は高橋の犠飛、上野の適時打でさらに2点を加え、点差を引き離す。一方、今季全ての試合で先発を務めたエース・高橋が最終戦も最速で高さと低さを意識して投げた(高橋)。得意とする直球で強力打線を封じ込め、要所を締める粘投を披露。中盤に3点を献上するも、その後は好調なピッチングがさえる。部の主軸として勝利の追い風を吹かせた。攻撃では5回、2死三塁の好機で相手の失策が絡み、7点を獲得。最終リードを維持し、7-3で白星を勝ち取った。

二番の勝因は全員が勝とうと思っただけ(高橋)。試合終了後、ベンチから飛び出した選手たちは主将を囲んだ。歓喜の輪が広がる中、仲間の手によって何度も空高く上げられる。笑顔と達成感があふれる表情に全ての思いがこぼれ、その姿は、栄光をつかんだチームの象徴だった。強固な結束力で王座のプレーを見せつけた、全勝で王座をかみ取った校組「インカレ優勝の目標に向けてやることはまだたくさんある(牧)。自信を胸に、熱狂の春を超える激闘の夏へ、不屈の闘志とこの快進撃を見せ、不屈の闘志で全国の強敵に立ち向かう。」

ルーキーの闘志と信念
打席では迷いなくバットを振り抜き、自らヒットを放つ。また、ベンチでも声を張り続けチームを鼓舞。仲間を支える行動が厚い信頼を集めている。「全体の底上げにつながる存在になりたい。投手陣の柱である高橋を目標に前向きな姿勢を貫く。」「見つけた改善点を修正して、点を与えない投手として活躍したい」。インカレに向け投打での存在感を高めるべく、技術の向上に意欲を燃やす松崎。己の投球を冷静に見つめ直し、課題の修正に取り組む。

力投する松崎(スポ1)

同志社から一番近い
京田辺校地
※昭文社京都府地図より

オンライン学科実施中!!
自宅でスマートフォンで受講できます

山城田辺自動車学校
〒610-0322京都府京田辺市普賢寺中島4-9
TEL 0774-63-6600

次回予告 9月下旬発行予定!
夏季結果号
ぜひお手に取ってご覧ください!

¥7,000 から
広告承ります

〒602-8580
京都市上京区上立売新町西入ル西大路町 61-1
同志社スポーツアトム編集部

定期購読受付中!!

お申込みはこちらから▶▶
<https://doshisha-atom.net/subscribe/>
年間購読料 ¥2,000
年6回発行!
ご自宅まで配送いたします!